

横川 裕也君のプレゼン(徐誠敏ゼミで考える『FACTFULNESS(ファクターフルネス) : 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』)から学んだもの

2019年度3年次ポジベーションゼミ(徐誠敏ゼミ)の第9回目のプレゼンテーション

2019.6.21(金)

《横川 裕也君》

『ファクトフルネス』を買うきっかけになったのは、帯に書いてあった「あなたの常識は20年前で止まっている」という言葉に惹かれたからです。そして本を手に取りパラパラと読んでいくと、今回私がパワポ作りに使った「世界の事実に関する13問のクイズ」というものにたどり着きました。このクイズがほんとうに衝撃的でした。ほとんどの問題で私が出した答えの正反対のものが答えでした。特に驚いたのが「世界中の1歳未満の子供がなんらかの病気に対するワクチンを受けている割合は何%でしょうか?」という問題です。私はあたりまえに20%を選びました。しかし答えは80%です。もう、この世界は私が思い描いていた時代のはるか先を進んでいました。衝撃的でした。この本には13問のクイズを解説していきながら「なぜ世界の事実を、比較的裕福な暮らしをしているほとんどの人が解けないのか。また、正しい視点で世界を見るためにはどうすればいいのか。」という説明が書いてありました。それを簡潔にまとめると「自分の力で問題を比較し、見つめ直し、常に情報をアップデートしていこう。」というものです。このことを胸に刻みながら、また自分が世界を見つめるときは見つめているのではなく「無意識のうちに高い所から見下ろしてしまっている」という意識を忘れずに、物の本質を見極めていこうと思いました。

《大倉 真千子ちゃん》

問題は10問中5問正解でした。世の中の偉い人の方が正答率は低く、現状を理解していないことを知ると未来は不安でいっぱいだと思います。

今回のプレゼンは、貧困問題や教育問題など、みんなが思っているより世界は良い方向に進んでいるという内容でした。そしてその話の進み方を見ると、貧困層は減ってきている、女性は教育を受けられるようになってきたというように昔より良くなっていると主張しているように思いました。そこで私は、じゃあ残りは?と思いました。良くなっているけれど、まだ世の中には困っている人が少なくても存在していることはもうどうでもいいのか?と。現にマスコミが大きく取り上げるから認識に違いが生まれてしまったからで、かといって今主張している人たちは本当に困っているだろうし、これからも目をそらしてはいけないと思う。なのに、この本を読むことによって、「なんだ思っていたより大丈夫じゃん」と思われてしまい、募金やボランティアが薄手になって欲しくないと思う。た

たとえば本の売り上げの一部を寄付するなど、貢献できるような活動があればこの本を手にとった人、取ろうとしている人の理解がより深まるのではないかと思った。けれど、横川君が自分たちの認識が違うことに気づけたことで、そこにビジネスチャンスが眠っているということを言っていて、これはビジネスの本なのか？となり、それならば捉え方は変わってくる。

《加藤 綺子ちゃん》

MOS 世界大会入賞式(日本代表発表会)の参加により欠席。

《眞下 愛裕》

今回の横川君の発表を聞いて、いつでも行える座学での学習を行うよりも実際に行動を起こしたり、現地に行ったりすることが大切だと思いました。自分の中にある固定概念に縛られすぎて、視野が狭くなってしまい、実は様々なところにあるチャンスに気づいてないということがあり、それがビジネス・チャンスになることもあります。人生の中で損をしていることが多いのではないかと感じました。今回は、貧困という問題についての話でしたが、意外と知られていないことはさまざまな分野で起きていて、それらを代表的な機関が出している統計などのデータを 1 つの情報として捉え、それを前提として実際に現地に出向いたりすることが大切だと感じました。

金曜日の討論の中で、統計などを見るだけでなく、実際に試してみることが大切という話になり、これを聞いてこれからの就職活動にも同じことが言えると思いました。自分が目指したいと思っている職種や業種を、ネットなどを使って調べ、自分でイメージすることは簡単にできますが、実際のところどのようなことをしているかは、実際に働いている方の話を聞いてみることや、インターンシップに参加するなど自分自身が何か行動を起こさないと真実を知ることはできないということを今回の貧困の統計を通して学ぶことができたので、これから行う就職活動に役立てていきたいと思いました。そのためにも、改めて今年の夏のインターンシップに取り組みたいと思いました。

《根本 岬君》

私は、今回のゼミのディスカッションで自分が情報弱者であることに痛感させられました。世界の貧困や就学率などの普段では考えないような情報に対して、自分の中でこのくらいであろうと勝手に断定してしまったり、ニュースや記事などからの情報を一度しか見ていないため、具体的に覚えていなかったことをあたかも答えであるかのように記憶していたりと、自分の中にありその情報が目の前にある問題のヒントの糸口だと思い込んでいることが大きな要因になっていると改めて気づきました。また誰しもが完璧にすべての情報を理解し自分の言葉で話すことができない。共有する途中で勘違いや共有する技術のなさなど多くの情報を錯綜する要因があると今回のディスカッションで思ったのでデータの

出所・収集方法・制作者の技術力などを加味しながら引用や共有をしなければ間違った情報を与えてしまうとも感じたため今後製作する資料やパワーポイントなどではその辺を理解して引用及び参考にしようと思いました。

先生やほかのゼミ生が言っていたで「データも大事だが現場の事の方が大切だ」という意見に対して私は、それは少し違うと思いました。確かに実地見分は大切だと思います。データがすべてではなく例外や読み取りの理解度の違いによる誤解など、実際に見てからでないといけないこともあるとは思いますが。しかし現場かデータかという議論よりもそれをどうか伝えられるかという技術が大切で、現場の環境や実態そこで出た意見や考えなどをいかに伝えやすくわかりやすくデータ化するのが重要だと思いました。

《小島 海璃ちゃん》

今回のプレゼンを聞いて、自分の知識がどれだけ古いものなのか、こんなにも最近の事を知らないのかと実感させられました。ニュースやネットの記事などから毎日最新の情報を得ているはずなのに、これだけ分かっていないというのは衝撃でした。10問の質問に対して正解数が少なかった原因は、ニュースやインターネットの情報は操作されている可能性もある事とは別に、無意識に情報に対して自分なりに解釈をしてしまったり、自分の持っている知識を疑わないという事をしてしまっている部分があるからだと思いました。正解を教えられた時も、本当に？と疑ってしまいました。情報ではなく自分の知識を疑う必要があり、その上で膨大な情報を比較しつつ、信用できる情報だけを選択していく必要があると今回のプレゼンを聞くことで気づかされました。横川君の提示してくれた資料の中でも、飛行機事故の死者数というグラフが1番気になりました。飛行機を運転している人は人間で、人間誰もミスをすると思うのに、数値が1しかないという事に驚きでした。飛行機事故を恐れて飛行機に乗れない人に対して、このグラフを見てもらいたいなと思いました。飛行機事故を恐れている人も私と同じように自分の知識を疑う事をしていないから、飛行機は事故を起こすという古い情報に囚われ、最新の情報を取り入れる事が出来ないから昔に固定されて動けないのだと思いました。グラフを見て、悪い事、良い事が0または100になる日がいつかは来るのだと思えました。そこに少しでも貢献できると思う募金などをもっと積極的にしてみたり、自分の中の意識改革をする事で、現実になるのが近くなるのかなと思いました。

《富永 浩太君》

今回のゼミでの感想を書いています。今回の内容は僕の中ではとても面白い内容だなと感じました。ゼミの中では調査結果の信憑性についての話もありましたが、それはなしで感想を書いています。

僕は10問あった中で4問しか当たっていませんでした。正直この結果は全然想像できていなかったのが驚きもありました。でも答え合わせを終えて一通り見てみるとよくよく考

えればわかることが多いなと思いました。ゼミの中でもたくさんの方が言っていました。固定観念に惑わされてしまっていると言っていました。僕もそう思いました。その中でも人間は全然頭を使えていないんだと強く感じます。この質問はチンパンジーでも3問解けると言っていました。1問も正解しない人もいました。どれだけ日常の中で頭を使って考えていないかがわかってきます。例えば、問題の中に世界の1歳児でワクチンを受けている子は何割いるという問題がありましたが、よく考えれば8割というのもわかるはず。これは小学校とかでもペットボトルのキャップを集めてワクチンに帰るということを定期的にやっていたが、僕の小学校だけでも1回に100人も助かるということも教えてもらいました。それが日本全国の学校で行なっているのだから8割ワクチンを打っていても不思議ではないです。他にも電気だとなければその国の情報も入っていないし、そこで日本人も活動できません。このように1つ1つを自分の日常生活や、過去の経験に合わせてみるとわかってくることは多いと思います。だからもっともっと頭を使って考えて自分の成長のために生活することが大切だと感じました。

《松山 結ちゃん》

問題の10問を解いて、私はほとんど正解しませんでした。問題を解き終わって思うことは先入観には捉われてはいけないということです。簡単に決めつけることはできないということ、してはいけないとも思いました。ご存じかもしれませんが、実はロフトでも、(言いつらいですが)今年のパレンタインの広告で炎上するということがありました。私は先入観がとても関わっているのだと思います。広告などで炎上をしてしまうのは、送り手、受け手、少なからずどちらかに先入観があるためだと思います。そうした炎上を起こさないためには物事に対して本当にそうなのかということ一度止まって考える必要があります、やはり様々な視点に立つということが重要だと思います。私にもしっかりと先入観があったことが驚きで、今回の授業で痛感しました。百聞は一見に如かずという言葉思い出すこともでき、インターンシップの大事さも改めて分かりました。1日や2日という短いインターンシップでも、インターネットで情報を集めるよりもずっと意味のある事だと思いました。今回授業で知った私自身にも、先入観があるということをお忘れずに、実際に見るということをお大切にしていきたいです。

《後藤 拓己君》

まず最初に、冒頭で出題された10問の問いですが、だいたい自分の感覚に従って解いていきました。言ってしまうと半ば勘ではあるのですが、自分の中のイメージをもとに推測していたので、どこにも根拠のない自信を僅かに孕んでおりました。しかし、いざ答え合わせをしてみると、合っていたのは10問中1問だけでした。ただのイメージをもとに類推しただけであるので、客観的に見れば間違えるのも至極当然ではあるのですが、自分の中ではもはやそれが根拠と呼べるほどに自信が肥大化しており、あまりの採点結果に言葉

が出ませんでした。自分の中のイメージと世界の実情にはこんなにも差異があるのだと思い知らされました。

最近、阪急電鉄の車内ポスターが様々な人の反感を買い、ネット上で所謂「炎上」をしているのをご存知でしょうか。端的に説明すると、阪急電鉄は80代の男性をはじめ、主に高齢者が考えた「はたらく言葉たち」というテーマでつくられたポエムをポスターにし、電車内に貼り出すというキャンペーンを行っており、そこで注目を集めたのが、「月収50万で生き甲斐のない生活と、月収30万だけど働くのが楽しくて仕方がない生活と、どっちがいいか。」といった趣旨のポエムでした。これに対してネットでは「そんなにももらえない」「月収20万以下で毎日働くのが辛い」「月収30万以下の人を蔑視している」と批判が殺到しました。このようなことが起こってしまった要因として、今、高齢者と呼ばれている層の人達が若い頃は、それが普通であり、そしてその価値観のまま、現状を知らぬままポエムをつくってしまったことにあると自分は思っています。このように、自分の中の価値観と世間の実情との差異は時として他者を不快にさせるし、自分の身までも追い込んでしまうのだと一連の炎上を見て思いました。

今回のプレゼンを聞いて気づいたことは、正しい認識でいることや常に情報をアップデートしていくこと、それから固定観念を疑うことがいかに大事であるかです。「当たり前」を疑うのは難しいことですが、これからはそういった色々な「当たり前」に対して、その当たり前である根拠を示せるように、常にアンテナを張ってたいです。

《平尾 友教君》

初めに問題が出され自分の感覚で解いていったのですが、答え合わせの結果、一問だけの正解でした。はじめはよくわかってなかったのですが解説を聞いていくと驚きや納得のできる結果でした。家ではよくニュースがついていて見えています。よくないニュースのほうが多く、マイナスな表現が多い印象です。だからなのか問題を解いているときも他国のマイナスな印象が大きかったです。しかし、今は自分が考えていたよりプラスのあったのだとわかりました。悪いことは減っていき、いいことが増えてきているデータを見て想定外でびっくりです。技術面の進歩によって、がん生存率の増加、安全な飲料水を利用できる人の増加、乳幼児の死亡率の減少などあらゆるところで成長しているのだと感じました。小さいころに、世界の貧しさなどを教わりましたが、最近はこの世界がどうなっているのかについてはニュースでも細かく報道しないし、知る機会が少なかったなとも思いました。コンビニではワクチンのための募金、今はどうなのかわかりませんが、赤い羽根募金やペットボトルのキャップがいくつ集まるとこんだけのワクチンに代わるといったこともありました。自分の考えは少し前で止まっていたのかなと改めて考え直す機会になりました。

《森田 一輝君》

今回のゼミで、世界は自分が思っているほど貧困じゃなくなってきたって事がわかりました。でも自分が、世界がある時代の貧困から止まっていると思うのはテレビなどで繰り返し貧困なことを取り上げているからなのかなと思いました。クイズを解いていてワクチンのクイズはものすごく驚きました。なんか CM とかでまだワクチンを受けられない子がたくさんいるみたいな UNICEF の CM をみた事があり、それを思い出して答えを書いたら全く違う答えでした。もうワクチンを受けている子は結構いて、逆に受けられない子の方が少ないだともとても驚きました。教育の事もクイズでありましたが、ほとんどの子がちゃんと文字は読める程度には教育は受けており、受けられない子の方が少ない。たしかに前テレビでアフリカの遊牧民の人達のための移動図書館と言うのがやっており、文字を読めない子は本当に数名ほどで後の子はちゃんと本を読んでいました。しかし、アフリカの遊牧民には女の子は勉強ではなく家事育児ができればいいという考えがまだあると聞き驚きました。世界はもう自分が知っている世界ではなくなってきたのがよく分かりました。

《笛木 河我君》

今回のプレゼンテーションは、世界はそんなに悪くないと思える内容でした。自分自身、特定非営利活動法人に寄付活動を行なった事もあり、紛争や内戦による貧困が未だに蔓延しているものだと思っていたのですが、メディアやマスコミが大々的に騒ぐ割に規模としては非常に小さいものであったと知りました。

世界的にみた貧困は減少しているという事実は知っていましたが、それは客観的なデータを見ることなく、また現地に赴くといったこともなかったのであまり実感がありませんでしたが、ソースが明らかにされデータとしてまとめられているとこの数十年で状況はかなり改善されたと思います。

これからはフリーのジャーナリスト気取りが発信する情報を鵜呑みにすることなく、公平なデータと信頼性の高い機関の発表だけでなく、できるなら『百聞は一見にしかず』のことわざのように一度現地に行き自分の目で現実を見たいと思いました。

《福元 将汰郎君》

私は、今回の世界の貧困などの 10 個の問題を解いて、自分が思っている以上に世界の貧困やテロなどさまざまな問題は年々少なくなっている事を知り凄く驚きました。自分がいかに日々の暮らしの中でニュースなどから先入観にとらわれていたのかが分かりました。私は、特に世界の人の平均寿命が 70 歳になっていたことに凄く驚き興味を持ちました。日本などの先進国では平均寿命が高いことは知っていましたが、南アフリカなどの発展途上国などは医療の発展、貧困などの問題などから平均寿命も短くなるものだと思っていたので、自分が思っているよりも発展途上国の医療の技術などは上がってきているのだと思います。

ました。

テレビやニュースなどで取り上げている世界のテロ、貧困、犯罪は昔と比べて現在は年々少なくなってきたが、世界の人口の増加による食料不足、AIの発達による職業難、少子高齢化の問題などの新しい問題もこれからの未来に出てくると思うので、自分自身も他人事と思わないでこれから自分で考えて行動していかなければならないと思いました。

《名知 慎哉君》

横川君の発表を聞いて思った事は、まず始めに、本や番組でもそうですが、何でも鵜呑みにしてはダメだと改めて感じました。なぜなら、小さい頃それを信じてしまっていたからです。例えば、やりすぎこうじという番組を見たときに、こう言う理由だから、人類が滅亡しまう、宇宙人がきて、人類が滅亡してしまうなどと言った事を芸人の方が話していて、小さい頃なので、それを信じてしまってお母さんここに逃げよ！と言った記憶があります。今思うとばかばかしいのですが、そう言った事があるので、改めてテレビ番組や、本に書いてあることの実事確認や、書かれていることが全てではないと思いますし、番組が言っている事は全てではないと思うので、半信半疑の気持ちで、本など読んだ方がいいなと感じました。

《三輪 景虎君》

世界は私が思っている以上には悪くないと感じましたが、それでもいろんなことでの認識の差が凄いと感じました。1日2ドルや8ドルで生活するなんて考えられないし、今の生活ができていることに感謝したいと思います。授業中でも言っていた通り貧困地区でのビジネス・チャンスは発展途上国よりも多いと思います。しかし、ビジネスがそこにあるから人々を助けるという考えは少しちがうと思います。本来あるべき姿は貧困地区での人々を救いたい、助けたいという気持ちがあってから自然にビジネス生まれてくるというのがあるべき姿だと私は思います。利益よりも思いやりを大事にする人が多く増えることで今よりもずっと世界はいい方向に向かっていくと思いました。